

佐賀県日中友好協会2013年度  
第1回市民講座開講  
「有田と中国の焼物語」



講師：鈴木由紀夫氏（佐賀県立九州陶磁文化館長）

期日：2013年6月29日（土）

午後1:30～3:00

会場：佐賀市立図書館会議室

（資料代：¥500）



～鈴木由紀夫氏プロフィール～  
1980年の九州陶磁文化館開館時から学芸員として勤務。2010年から館長。『柴田コレクション展』『世界の染付展』『将軍家への献上 鍋島展』などの展覧会を担当。



手本

中国・景德鎮窯  
1620～40年代  
鍋島報效会蔵  
初代藩主鍋島勝茂所有



写し

日本・有田窯  
1640～50年代  
鍋島報效会蔵  
初代藩主鍋島勝茂所有

### 講演要旨

有田焼は朝鮮陶工による技術導入で1610年代に始まりますが、目標とした製品は中国のものでした。

日本に輸入されていた景德鎮窯の製品などを模倣し、また中国からも技術を導入し有田焼は質を高めていきます。1650年代からは東南アジアやヨーロッパに輸出されるようになり、国際市場で中国製品と競争できるほど産業として成長しました。

こうした中で、柿右衛門様式や金襴手の古伊万里様式が生まれてきます。中国に学びながら中国とは異なる焼物の美を生み出す歴史的な展開を分かりやすく紹介します。

柿右衛門  
17世紀後半



中国・景德鎮  
18世紀前半



＜お問い合わせ先＞ 佐賀県日中友好協会 事務局  
〒849-0926 佐賀県佐賀市若宮2丁目14-1 ホワイトピア若宮103号  
TEL&FAX 0952-33-1200  
e-mail:saganichu@rapid.ocn.ne.jp  
<http://www.saganichu.com>